

百人以上がボランティアの楽しさ学ぶ

ボランティア連絡協議会による中元寺川・彦山川流域の一斉清掃が6月16日に行われました。10年以上続く恒例の活動に、今年は町内の少年野球4チームも初参加し、総勢124人が2手に分かれごみを回収。終わりに葛原高会長がボランティアの楽しさと喜びを参加者に語りかけ、約2時間の活動を終えました。



↑ 最後は両河川の合流点に集合し、可燃ごみ30袋、不燃ごみ16袋を回収。

↓ 上野焼協同組合の作家11人が、参加児童87人に作陶のコツを直接伝授。



個性を生かした子どもたち自慢の上野焼

小学1年生から中学3年生を対象にした町の伝統的工芸品である上野焼の陶芸教室が、7月7日に金田分館で開催されました。開催日と重なる七夕の日から着想を得た星型の皿や飲み口の大きなコップなど、自由な発想を生かした作陶に挑戦。参加児童は自分の手で作った世界に1つだけの上野焼にご満悦の様子でした。

↓ 要支援者の避難を想定したリヤカーも使用して、上弁城集会所を目指す参加者を消防団が先導。



過去を教訓に地域総出の訓練

尊い命が失われた上弁城地区の土砂災害から10年にあたる節目に、同地区をあげた防災訓練が7月7日に行われました。避難勧告発令を想定した防災無線放送を合図に、地域住民約60人が一斉に集会所への避難を開始。安否確認の点呼後、地元消防団による放水訓練と全参加者の祈りを込めた黙とうを行い、防災意識を高め、地域の連携を再確認しました。

↓ 自由時間に受験や進学などの相談を経験を踏まえ10人の大学生がアドバイス。



大学生との会話からのぞいた未来の自分

FIWC九州の大学生が、町内の中高生に向けて大学や海外について紹介する企画を7月7日ふくちのちで開催しました。「子どもたちの未来の選択肢を1つでも増やしてあげたい」と本イベントを企画。参加者11人は現役大学生が語る大学生活に、少し先の自分の姿を探るような真剣なまなざしを向けていました。

福智ゆかりの外交官が異国を紹介

金田剣友会が6月26日に福智町出身の祖父をもつ外交官の山本圭吾さんを講師に迎え、勤務地のドミニカ共和国についての学習会を行いました。同国の環境や文化、社会問題などを時間の許す限り紹介。参加した46人は、日本から1万3千km以上離れた異国に思いをはせ、興味深そうに耳を傾けていました。



↑ ドミニカ共和国発祥のダンス「メレンゲ」や公用語であるスペイン語も披露。

令和元年度 福智町防災講演会

KBC現役アナウンサーの太田祐介氏を講師に招いた「福智町防災講演会」が地域交流センターで6月23日に行われました。昨年の豪雨を受け、例年より1か月早く開催。県内60市町村との防災ネットワークやテレビ・ラジオと連携した情報交換などの事例を挙げ、「命を救う報道」への決意を丁寧な言葉で訴えました。



↑ 実際のテレビやラジオ放送を交え、聞き取りやすい語り口で90分間講演。

↓ 初めて使う工具に苦戦しながらも、天の川をモチーフにした竹灯籠を作成。



七夕の日に竹の力で福智町を元気に

筑豊が拠点の(株)ちくほう竹活が7月7日、自社の名前にちなんだイベント「竹の日の夕暮れ」を上野焼と音楽の店 Gounotani(上野地区)で初開催しました。参加者は、地元アーティストによる生演奏の観賞や竹灯籠作りを体験。同社は、町を元気にする企画を今後も定期的に行きたいと意気込みました。